

病態解析学特論 I		選択	春学期	1 単位
担 当 者 〔研究分野〕	武藤 章弘 〔内科学〕、廣瀬 農〔放射化学〕 清水 孝恒 〔内科学〕、芝崎 真裕〔薬理学、薬物治療学〕 輪千 浩史 〔生化学〕、牛久保裕子〔薬理学〕 高橋 万紀 〔有機化学〕 笹津 備尚 〔製剤学〕			
到達目標・目的	疾患の病態、発症機序を生化学的に理解する。			
受講心得・準備学習等	生体を構成する遺伝子やタンパク質の制御とその役割、疾患との関連や診断・治療との関連性について理解を深めることを心がける。 取り上げる疾患の概略をつかんでおくこと。			
事後学習・復習等	各疾患の病態、発症機序を復習するとともに、疾患に関する現在のトピックや問題点を再確認しておくこと。			

授業の方法と各回の内容

授業の方法		講 義	
回	項 目	内 容	担当者
1	RI による病態解析技術	放射性同位体 (RI) を用いた病態解析と臨床応用	廣瀬
2	結合組織の病態解析	結合組織の遺伝性疾患	輪千
3	熱帯感染症とその病態	顧みられない熱帯病および熱帯感染症の病態	高橋 (万)
4	睡眠障害の病態解析	睡眠障害に関する病態解析と薬物治療	芝崎
5	褥瘡とその病態	褥瘡とその疾患から考える製剤	笹津
6	難治性創傷の病態解析	褥瘡をはじめとする創傷モデル動物の開発と応用	牛久保
7	血液疾患の病態解析	造血器腫瘍の病態	武藤
8	免疫疾患の病態解析	自己免疫性甲状腺疾患の病態	武藤
9	悪性腫瘍の病態解析 1	腫瘍細胞の増殖機序	清水
10	悪性腫瘍の病態解析 2	細胞死誘導機序	清水

成績評価の方法	講義中のディスカッション、レポート等を総合的に判断して評価する。
成績評価の基準	講義内容に関するレポート、ディスカッションの内容から理解状況を判定し、総合的に判定する。
教科書	特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書など	特に指定しない。
その他	